

理科(地学) 東北大学(前期) 経済(理系)・理学部・農学部 1/2

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

論述を主とし、計算、語句や記号選択を含む。

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

その他トピックス

1の宇宙分野では、有効数字指定がなく、計算結果のみで計算過程を示す必要はなかった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	メント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	計算 論述	宇宙(連星)	地学	連星とその進化に関する問題である。連星までの距離、連星の質量・半径に関する計算問題では、従来あった計算過程の欄が解答用紙になく、計算結果を答えるのみの問題であった。	
2	空欄補充 論述 計算	固体地球	地学 + 地学 基礎	地殻を構成する岩石、大陸と海洋のブーゲー異常に関する空欄補充、地震波の影の領域に関する論述問題、大陸地殻の形成と成長に関するきじゅつ論述問題、アイススタシーに関する計算問題であった。	
3	論述 記述	宇宙(太陽系)	地学 基礎 + 地学	地球型惑星と木星型惑星の違いに関する論述問題、天王星と海王星が巨大ガス惑星にならなかった理由に関する論述問題、金星と地球の大気組成、および、表面温度の違いが生じる理由に関する論述問題、地球内部の熱源に関する論述問題であった。	
4	論述 記号選択	大気・海洋	地学 + 地学 基礎	低緯度の蒸発量が小さい理由に関する論述問題、大気の大循環と関連した赤道付近と緯度 30° 付近の降水量の違いに関する論述問題、海洋の表層の塩分に関する論述問題、熱帯低気圧の発生海域、高潮が起こる理由に関する論述問題である。	
5	記述 論述	地質・地史	地学 基礎	泥・砂・礫の境界となる粒径、細粒の粒子が動きにくい理由に関する論述問題、堆積物の中から特定の粒径の粒子を集める方法に関する論述問題、タービダイトの形成に関する論述問題である。	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

理科^(地学) 東北大学(前期) 経済(理系)・理学部・農学部 2/2

<学習対策>

宇宙分野の問題は、毎年出題されるが、それ以外の分野は、出題がない年度があるとはいえ、どの分野が出題されても大丈夫のように、地学の全分野を学習しておこう。地学基礎の内容も含まれるので、啓林館の地学基礎と地学の教科書を購入して、しっかりと読んでほしい。

宇宙分野では、過去問を用いて多くの計算問題を解いておこう。論述問題は50～150字程度を目安に、典型的な問題を練習しておこう。

また、東北大学の過去問に、かなり似た問題が例年出題されている。できうる限り年度を遡って、問題を解いておこう。